

日本ガス協会 本荘会長 会見発言要旨

1. クリーンエネルギー戦略の中間整理

5月13日のクリーンエネルギー戦略検討合同会合において、クリーンエネルギー戦略の中間整理が示された。

ロシア・ウクライナ問題に伴うエネルギー安定供給への懸念が高まるなか、今回の中間整理においては、エネルギー安全保障の確保に万全を期した上で脱炭素を加速させるための政策が整理された。

「エネルギー安全保障の確保」における資源燃料分野においては、化石燃料のロシア依存度低減に関し、エネルギー源の多様化とともに、上流開発支援や燃料供給の緊急対応策、LNG調達等への国の関与強化が示されるとともに、主要消費国と連携して生産国へ増産を働きかけることが明記された。

燃料供給体制の強化においては、レジリエンスに優れるガスインフラの継続的な強化や、当該インフラの活用により、燃料転換や合成メタンの開発・実証等を推進するとの方向性が示された。

「炭素中立型社会に向けた経済・社会、産業構造変革」では、合成メタンの「技術開発」、「CO₂排出に係るルール整備」について、その必要性が明確に示された。

合成メタンの「コスト差を踏まえた支援措置」については、合成メタンは再エネ・水素利用の一形態であり、新たなCO₂が排出されないとの整理のもと、既存燃料とのコスト差などに注目し、導入拡大に向けた支援措置を検討することが明記された。こうした支援措置を活用し、合成メタンの導入を進めていきたい。

2. 「カーボンニュートラルチャレンジ 2050」アクションプラン 取組み状況

昨年6月の公表から1年が経過し、これまで各事業者において、低炭素に貢献する天然ガスシフト等を推進するとともに、メタネーションの社会実装に向け、技術開発や環境価値獲得への取組み、サプライチェーン構築の検討など、国や関連業界とも連携して着実に推進してきた。

引き続き、アクションプランの具現化に向けた取組みを加速させていきたい。

3. 2025年大阪・関西万博 ガスパビリオン

日本ガス協会は、5月30日の「民間パビリオン出展者発表会」において、ガスパビリオンの出展構想の概要を説明した。

ガス業界としては、今回の出展を通じて、これからも多様性に満ちた未来社会に寄り添い、カーボンニュートラルという地球規模の課題に挑戦していく姿をしっかりと伝えていきたい。

具体的な検討はこれからとなるが、来場者、特に次世代を担う若者や子どもたちの記憶に残り、豊かな心をはぐくむ原体験となるような「来場者参加型エンターテイメントパビリオン」を目指していく。

以上